2019日本 中国
ティーンエイジ アンバサダー

日本プログラム
実施報告書
７月８日(月)～７月１５日(月)

～この「笑顔」友情の懸け橋を築く～

AEON 1% CLUB 公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

関係者各位

２０１９年８月２１日
公益財団法人イオンワンパーセントクラブ

日本プログラム　報告書

日頃よりイオンワンパーセントクラブの活動にご理解とご協力を賜わり、誠にありがとうございます。２００９年から継続的に行っている本事業は、今年11年目を迎えました。日本で交流した内容を下記の通りご報告申し上げます。

■実施期間：２０１９年７月８日（月）～２０１９年７月１５日（月・祝）

■実施目的：両国の友好親善の促進とグローバ・ルリーダーの育成

■参 加 者：①日本高校生７０名

筑波大学附属高等学校（東京都）	１０名（北京市の高校生と交流）
東京学芸大学附属高等学校（東京都）	１０名（北京市の高校生と交流）
東洋大学附属牛久高等学校（茨城県）	１０名（北京市の高校生と交流）
立命館慶祥高等学校（北海道）	１０名（武漢市の高校生と交流）
札幌日本大学高等学校（北海道）	１０名（武漢市の高校生と交流）
名古屋大学教育学部附属高等学校（愛知県）	１０名（蘇州市の高校生と交流）
三重県立四日市高等学校（三重県）	１０名（蘇州市の高校生と交流）

②中国高校生７０名

北京市：	北京景山高等学校	１０名（筑波大学附属高等学校と交流）
	北京市第二十中学	１０名（東京学芸大学附属高等学校と交流）
	北京市三里屯一中	１０名（東洋大学附属牛久高等学校と交流）
武漢市：	武漢外国語学校	１０名（立命館慶祥高等学校と交流）
	武漢市第六中学	１０名（札幌日本大学高等学校と交流）
蘇州市：	南京師大蘇州実験学校	１０名（名古屋大学教育学部附属高等学校と交流）
	蘇州市第十中学	１０名（三重県立四日市高等学校と交流）

■主なプログラム：

①表敬活動：
- ・中華人民共和国駐日本国大使館 の質問会
- ・中華人民共和国駐日本国大使館歓迎会
- ・外務省への表敬訪問
- ・東京都庁への表敬訪問
- ・北海道庁への表敬訪問
- ・愛知県庁への表敬訪問
- ・三重県庁への表敬訪問

②歴史文化理解・体験活動、他
- ・浴衣着付け体験、浅草見学・TEPIA最先端技術館見学、
- ・芝浦水再生センター、パナソニックセンター見学
- ・カップヌードルミュージアム施設見学、マイカップヌードル作り体験、えこりん村でのエコ体験、トヨタ産業技術記念館、リニア鉄道館見学
  エコバルなごやなど

③交流活動

・授業体験（東京地区、北海道地区、中部地区にて実施）

・ホームステイ、フェアウェルパーティー（同上）

■従来との相違点：

①初めて「環境と経済の発展の調和」というテーマを決めてプログラムを実施

②交流の学校数がいままでで一番多い14校。

③表敬活動の充実（北京高校生の東京都小池知事への表敬訪問が実現）

④外務省「日中青少年交流推進年記念事業」認定

⑤日中両国の高校生がまとめた「日中小大使未来友好宣言」を
中華人民共和国駐日本国大使館と外務省に贈呈

⑥初めて中国の撮影関係者と連携し、密着取材

① 表敬活動

・中華駐日本国大使館 の質問会
・中華駐日本国大使館歓迎会
・外務省への表敬訪問
・東京都庁への表敬訪問
・北海道庁への表敬訪問
・愛知県庁への表敬訪問
・三重県庁への表敬訪問

■中国大使館への表敬訪問及び質問会

日　　時：２０１９年７月９日(火)　１７：００～１７：４０
質問会　：張亜強　参事官

Q１）立命館慶祥高等学校／学生
国際交流の中で高校生に求める役割はなんですか？

A１）個人的な考えでは、相手国への理解を深めることだと思います。現在では、日中間だけにとどまらず、世界諸国で実際の報道と現状の相違が生じています。それは物事の一部だけを切り取り、全容の報道が難しいことから起こります。高校生の交流では、一対一の交流が基本となるので、お互いに全面的な理解に努め、お互いの認識を正すことが出来ます。また、自国をアピール・紹介する機会もあります。若い世代の海外交流によって、一生の友情を育める良い友人を作って下さい。

Q２）北京三里屯一中／学生
外国人と交流する上でいい方法、距離の縮め方はありますか？

A２）グローバル化が進む中で、異文化交流が一人一人にとって益々重要になってきていますが、全く違う文化の下で育った人々が交流するには重要な能力が必要です。一つは、共通点を探すということです。趣味や旅行先の話などから距離を縮めるのも一つの方法です。また、もう一つは、開放的かつ抱擁的な態度で相手に接することです。考え方の違いだけで相手を敵視するのではなく、差異を受け入れる心が大切だと考えます。

■中国大使館歓迎会

日　　時：２０１９年７月９日(火)　１８：３０～２１：００

「日中小大使未来友好宣言の贈呈」

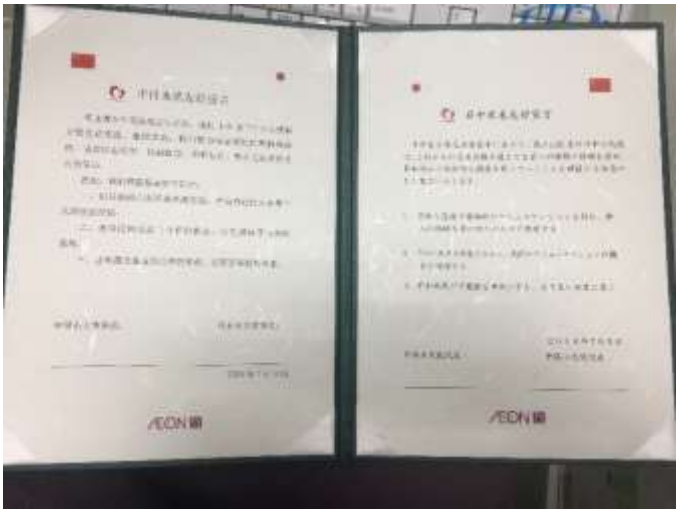
・贈呈相手：
中華人民共和国駐日本国
公使参事官　楊　宇 様

外務省　中国・モンゴル第一課

地域調整官　井川原　賢様

・贈呈者：
日本小大使代表：
札幌日大高等学校　代表学生

中国小大使代表：
北京市三里屯一中　代表学生



「歓迎会の様子」

■外務省表敬訪問及び質問会

日　　時：２０１９年7月１０日(水)　１１：００～１７：３０
質問会　：中国・モンゴル第一課首席事務官　山崎　修 次長

（山崎次長のご挨拶）
今年は日中交流推進年にあたり、様々な交流が行われています。皆さんが今後、多様な分野で日中の懸け橋となることを期待しています。そして、この交流が実り多いものとなりますよう願っています。

Q１）東京学芸大学附属高等学校／学生

日中間の考え方や価値観の違いから話し合いが上手くいかないことはありますか？また、それはどんな時ですか？

A１）外務省で働いていると、中国政府機関や中国大使館でほぼ毎日会議を実施しています。
言葉の違いや考え方の違いから最初から意見が違うことがありますが、最終的な合意点が見出せるまで、とにかく粘り強く話し合いをします。朝から晩まで、週末に及ぶこともあります。
一つの例を挙げると、先日６月２７日に大阪で日中首脳会談が行われましたが、当日を迎えるまでに、会談の内容、時間、場所、出席者に至るまで意見が違いますが、それを一つ一つ議論し、アレンジして会談が実現しました。テレビでは会談の様子のみ伝えられますが、それ迄に膨大な事務作業が発生しています。

Q２）武漢外国語学校／学生

現在、中国政府は持続可能な社会を目指してごみの分類が重要だと認識しており、北京や上海で試験的な取り組みが行われています。日本のごみ分類やリサイクルに対する国全体の取り組みはどのように行われていますか？

A２）個人的な経験からの回答になりますが、ごみの捨て方については自分の子供の時代より親から教わり、現在自分の子供にも伝えています。日本には、自分の町や地域を綺麗にしたいという思いが浸透しているので、家庭と学校の両方で教育されています。
この外務省の中でも、環境問題に熱心に取り組んでおり、省内のコンビニでは、現在プラスチックストローは配布しませんし、ペットボトルは、キャップは別に回収、ラベルは剥してボトルはリサイクルとします。このような一つ一つの積み重ねが大切だと考えています。

■東京都庁への表敬訪問（北京高校生）

日　　時：２０１９年７月１１日(木)　１１：４０～１２：００

表敬相手：東京都知事　小池 百合子 様

■北海道庁への表敬訪問（武漢高校生・北海道高校生チーム）

日　　時：２０１９年７月１１日(木)　１４：００～１４：３０

表敬相手：北海道副知事　中野 祐介 様

■愛知県庁への表敬訪問（蘇州高校生・名古屋高校生チーム）

日　　時：２０１９年７月１１日(木)　１６：００～１６：２０

表敬相手：愛知県知事　大村 秀章 様

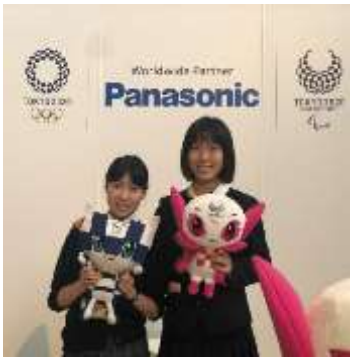
■三重県庁への表敬訪問（蘇州高校生・四日市高校生チーム）

日　　時：２０１９年７月１１日(木)　１４：００～１４：３０

表敬相手：三重県副知事　渡邉 信一郎 様

② 歴史・文化体験活動

・浴衣着付け体験、浅草見学
・芝浦水再生センター、パナソニックセンター見学
・カップヌードルミュージアム施設見学、
マイカップヌードル作り体験、
・えこりん村でのエコ体験
・トヨタ産業技術記念館、リニア鉄道館見学
など



③ 交流活動

・授業体験
・ホームステイ
・フェアウェルパーティー
※それぞれの活動は、
関東地区・北海道地区・中部地区にて実施

■授業体験

日　　時：２０１９年７月１２日(金)
場　　所：（実施高校とその交流高校）

筑波大学附属高等学校	⇔	北京景山高等学校
東京学芸大学附属高等学校	⇔	北京市第二十中学
東洋大学附属牛久高等学校	⇔	北京市三里屯一中
立命館慶祥高等学校	⇔	武漢外国語学校
札幌日本大学高等学校	⇔	武漢市第六中学
名古屋大学教育学部附属高等学校	⇔	南京師大蘇州実験学校
三重県立四日市高等学校	⇔	蘇州市第十中学

■ホームステイ

日　　時：２０１９年7月１２日(金)～ １４日(日)

場　　所：交流ペアのご家庭　他

■フェアウェルパーティー（関東・北海道・中部地区 同時開催）

日　　時：２０１９年７月１４日(日)　18：00～20：30）

場　　所：ホテルイースト２１東京（東京会場）

ホテルエミシア札幌（北海道会場）

ＫＫＲホテル名古屋（名古屋会場）

東京会場

北海道会場

名古屋会場

◇ 参加者の声

◆中国大使館表敬訪問

大使館での質問はどれも知的かつ今の我々にとってとても重要なものであって、これからの我々に必要なアドバイスをいただくことができ、良かった。今までの私の中の固定概念をいい意味で壊してくれた。私にとって、今回の訪問はとても有意義なものであった。

東洋大学附属牛久高等高校　学生

◆外務省表敬訪問

7月10日外務省の表敬訪問に、外交官として豊富なコミュニケーションスキルが欠かせない、また自分の国について多方面的に把握しなければならないと感じている。中国では現在環境問題について力を入れている。特にゴミ分別問題が深刻になっている。だから中国が近年著しく発展してきたが、環境問題や国家管理など、日本に学ぶところがたくさんあると思う。そして国民の意識も強化しないといけない、良い習慣を養うことも大切だと思った。また、日中の敏感な話題についても、相互理解が最も大事だと思った。

北京市三里屯一中　学生

◆外務省表敬訪問

考え方の違いは、常に起きていると聴いて、確かに考え方が変わった。文化や風習が違うから思考も違って当たり前であると納得した。そして、それを無理に正そうとせず、一つの個性として、そのままにして置くということも、ただ、言語の違うなか、この違いを互いに分かり合うことが厳しく、時間のかかることだということも分かった。中国の高校生が日本のゴミ整備について質問していて、意外な点に興味をもっているんだなと思った。むしろ、一般人に関係していることだから、着目されたのかなと思った。こういった日常生活で使う技術は日本だけで使うのはもったいないので、多くの国に（中国に限らず）輸出していけばいいと考える。

札幌日本大学高等高校　学生

◆授業体験

交流学校札幌日大で、日本語、音楽、剣道などを体験した。日本の高校と中国の高校の違いは、体育館や部活の会場がとても広い、レッスンの時間も50分あったが、自分の学校では、40分しかなかった。日本人の学生は、主な授業だけに関わらず、部活の授業も非常に真剣な態度で受けていた。とても感心した。また「環境と経済の発展と調和について」議論したり、いままで気づいていなかった社会問題を認識させられた。経済の発展をとても重視してきた中に、環境への配慮もすべきだということを学んだ。

武漢市第六中学　学生

◆授業体験

日本の学校の授業方式や学習内容が中国と異なるところを多く感じた。日本では、学生が専門の教室で授業を受けている。教室内で議論したり研究したりすることも出来る。授業の雰囲気もとても良かった。授業体験の時に、聞いた内容を私は既に勉強していたが、「古きを温（たず）ねて新しきを知る、以って師と為るべし。」のようにもう一度勉強することが大事だと思った。また、日本の学校は学生の多方面的な育成を非常に重視していると感じた。

北京市景山学校　学生

◇ 参加者の声

◆ホームスティ

短い二日間だったが、とても充実していた。一日目はペアと一緒に水上遊園地に行ってきた。二日目は買い物や名古屋城などに連れて行ってもらった。一番印象的なことは、日本の空手を体験したことだ。体験した時に驚いたことは、周りに練習している人は、子供や外国人が多かった。彼らの力強い声や迫力ある姿勢を見て、衝撃を受けた。

蘇州市第十中学　学生

◆ホームスティ

ペアのご両親、お祖父さん、お祖母さんと二人の妹さんと一緒に暮らした。とても親切で、美味しい日本料理を用意してくれて、部屋もとても清潔で、住みやすかった。土曜日、私が行きたい伏見稲荷大社や北海道神宮、札幌テレビタワーなどに連れて行ってくれた。また、着物が好きで、お祖母さんがわざわざ自分の着物を試着させてくれた。しかもプレゼントをしようとまで考えてくれた。またお家で茶道も披露してくれた。とても充実していた。

武漢外国語学校　学生

◆今回のプログラムを通じて、学んだこと

僕のペアは教養があり、きちんと日本の価値観を理解しようとしてくれていた。そのように全ての人類は人種に関係なく、きちんと教育を受けることが分かり合う上で大切だということを確認することができた。そして、もっと他の国の人々とも関わってそのような理解を更に深めたい。また、自分がペアに日本の文化を教える中で、自分が全く日本の文化について詳しく知らないことを理解し、もっと学びたいと思った。

東京学芸大学附属高等高校　学生

◆今回のプログラムを通じて、学んだこと

この一週間は僕にとって忘れられない一生の思い出になったと思う。本当に全てが充実していて楽しかったし、やりきったという達成感もすごくあった。中国に行くことをすごく楽しみにしている。その時も今回と同じように一生懸命にやり、たくさん吸収したいと思う。

三重県立四日市高等高校　学生

◆今回のプログラムを通じて、学んだこと

まず、思った通り日本が非常に清潔で、規則正しく、安全な社会だと感じた。同時にプログラム期間中に接してきた日本人が丁寧、楽観的、情熱的だと感じた。また、今回訪日を通じて、日中両国の相違点を感じた。学ばないといけないところも気づいてきた気がする。そして大使館や外務省などでお会いした立派な人達、同年代の皆さんと知り合って、とても嬉しかった。そして自分自身を見直す機会にもなった。これから自分がどういうふうになりたいのか少し明確になって、自信が付くようになった気がした。

南京師範大学蘇州実験学校　学生